

第9回 栗原市総合計画審議会 会議録

日 時:平成28年11月4日(金)午後1時30分～

場 所: 栗原市役所本庁舎 2階 講堂

出席者:委員15名

大泉一貫会長、小山信康副会長、遊佐勘左衛門委員、佐々木寿美子委員、阿部忠雄委員、佐々木加代子委員、木津川由利委員、高橋栄三委員、佐藤則明委員、菅原博美委員、齋藤理恵委員、熊谷和枝委員、三浦和昭委員、千葉多美子委員、岩渕進委員

(事務局)

鈴木企画部長、加藤企画部次長、鈴木企画課長、佐藤企画課長補佐、後藤企画政策係長、鈴木成長戦略室長補佐、鈴木成長戦略室成長戦略係長、成長戦略室 鈴木主査、企画課 藤主査、真山主査

1 開会

2 挨拶

○栗原市総合計画審議会 会長

総合計画の基本構想について、今回、案ができたということで、皆さんの手元の資料となっている。

この審議会を経て、基本構想に結び付けたいと思っているので、今日は忌憚のないご意見をいただきたい。よろしくお願いしたい。

3 協議事項

第2次栗原市総合計画 基本構想(案)について

(事務局説明) 省略(序論(案)の説明)

(会長)

序論それから、指針・考え方について説明をいただいた。

今までの内容に関して、質問を伺う。

(A委員)

「恵まれた自然環境を生かして」というところは、ずっと前から聞いていたことで、その通りだと思っているが、その環境を生かして都市からの移住を進めるところに関して、実際どれほど、現実的にはどのくらいの効果があったのか、ここ5年間で移住者がいたのかどうか、もしなければ掛け声だけではなく、何か方法を講じなければ、我々の自己満足で終わってしまうのではないかという心配がある。市としてどのような経過があったのか聞きたい。

(会長)

恵まれた自然環境への移住、田園回帰というところの成果について、事務局から説明をお願いしたい。

(事務局)

移住・定住に関する質問であるが、これは、例えば人口動態、移動を考えた時に社会的な移動といったものがある。

具体的には転入と転出の割合を捉えて、そこでの人口の増減がどのようなものかといったことであるが、栗原市においては、単純に一年間に出て行く人、そして入ってくる人、大体1,500人から2,000人程度の移動がある。

その理由は様々である。仕事の都合いわゆる仕事の異動、お子様であれば学校への進学で仙台へ、或いは首都圏へ出て行く、そして卒業と同時に戻ってくる等の移動がある。

その中で、総合計画において、或いは全国的に言われている移住・定住とは本人の意思で、本人は首都圏に住んでいるが、やはり自然の中で暮らしたいとして、自ら生活する場所を選んで引っ越しする人が移住・定住のターゲットと考えており、この数字に関しては、具体的なところは、実はなかなか掴みきれしていない。

その理由として、住民票の移動は、理由を付した形で登録しているわけではなく、例えば、窓口に来た方が移住する人なのか、仕事の異動によって来たのか、区別することができない。

ただし、栗原市としては、3年間の間にシェアリングタウンという1つの事業を行っている。これは市が所有している土地を造成し、安く、若い方達に宅地を提供する事業であり、これまでに市内で40件近い、今年のを合わせると、50件近い宅地が売買されている。

人数としては、一家族3人と想定すると150人程度の若い世帯の方々が、この栗原市に新しく住むということも現象として起きている。

具体的には今後、栗原市から出て行く方を抑え、入ってくる方を歓迎する、

そのような施策を進めていく必要があり、第2次総合計画では指針でうたっている。

移住・定住を受け入れて人口減少を緩やかにしていくことが、第2次総合計画の重要な柱であると考えている。

(A委員)

その場合に、自然を愛する、或いは栗原を愛するといった、そういった崇高な話であるのか、或いは何か安い住宅で、或いはタダで、そういったものがあるために来てくれるのか、それはそれで構わないが、入って来たメリット、こういうものがあるから来たのではないかという話があれば、そういう目標が分かればと思う。

(会長)

恵まれた自然環境を生かして、栗原市は田園都市として非常に素晴らしいというところが大前提となっているが、それが空理空論になってしまわないように、具体的な肉付けがどう行われるのか、この後の将来像や基本方針でも出てくるので、ぜひ議論していただきたい。

「自然環境を生かした」ということは具体的にどういう方向なのか、それをA委員は聞きたいと思う。

後程、議論する場があるので、そこで議論いただきたい。

他に意見がなければ、次に基本構想に入る。

(事務局説明) 省略 [基本構想(案)について]

(会長)

説明があったことについて、意見を伺う。

説明内容から、この基本構想(案)の構成がどのようになっているのか、と考えると思うので、次の基本方針(案)も併せて説明をお願いしたい。

(事務説明局) 省略 [基本方針(案)等について]

(会長)

説明が終わったが、如何か。

A委員如何か。

(A委員)

これは総合計画であるから、とても素晴らしい出来栄えだと思う。

これが具体的に住みたい栗原なのか、嫌味に聞こえるかもしれないが、10年間で1万人減ったということは、住みたくないから出て行ったのではないのかということであり、この辺をどのようにすれば住みやすいのか考えなければいけないが、皆さんと市役所も含めて、地域で取り組んでいる現状でもできていない。

これは私的な話だが、今度の日曜日、70歳の区切りの同級会をする。そこで何を言うかと考えた時に、我々の時の一迫小学校は同級生で203名いた。

今では、全体で50数名と非常に少ない。それは我々の責任でもあり、結婚はしたけれど、子どもを育てる時に自由にしていと育てたため、みんな出て行ってしまった。そのようなツケがあるのでは、と思う。

私達の時は、一迫中学校でも築館高校でも非常に勉強させられた。今はゆとり教育がすっかり染み付いて、あまり勉強していないことがある。これが今後、非常に心配なところもあるので、自然の中もいいのだが、世界に羽ばたく、或いはもう少し強く生きるような、そういう教育環境が望まれるのではないかと思う。

新しい産業にしても、人がいないところには来ないので、やはり能力がある質の高い教育環境で育てたところには来るのではないかと思う。

総論としては、本当に立派で非の打ち所がない。それを一歩進めるのも、我々も含めて行政ともども行っていかなければ、誰も行ってはくれない。ぜひその辺りの決議を、皆さんとともにもちたいと思う。回答は知らない。

(副会長)

1つは、病院関係である。栗原中央病院の状況を聞くと、行政で3億円ほどの補充をしている。なぜ赤字なのかと掘り下げると、まず私達、患者から見た場合に、病院の先生の信頼度である。先生がすぐ変わることである。長くいる先生を確保する必要があるのではないか。

それから、人口の減、高齢者が増えて患者がどうこうという話も聞くが、やはり今後、老人医療に、そういった施設の医療関係に着眼してやっていかなければ、病院経営もなかなか大変なのではないかと思う。

それから2つめは、産業の育成である。市としても2か所の工業団地が完成し、情報として誘致企業も3つ程度と聞いているが、そうした場合に、やはり地元の中小企業の雇用の問題が大変である。

今現在でも、今年の高卒卒業の雇用の面接会の状況を見てみると、実際、栗原からは130人程度の就職希望者があったが、その半分以上は仙台近辺に

行ってしまう。それから感じることは、栗原の面接会の時期が遅すぎる。やはり解禁になったらすぐに行わなければ、確保は難しい。面接に来たのは、20人程度しかおらず、それに対して企業は33社であった。こういった大変な状況になってきている。

今後は、やはり外国人労働者の導入、栗原市でも約35人ほどベトナムの人達がおり、現在、栗原市に来て働いていると思う。実際、私のところも導入している。若い人がいても、本気を出して働く人はなかなか見つからないのが現状だと思う。そういった人達を集めて一生懸命やる所は、いい所だと思う。

今後、そういった、栗原市の地元企業の雇用が大変になることを、頭に入れておかなければいけないのではないかと思う。

それから、ここまで来るまでに、各ブロックからいろいろな意見を聞いて来たかと思う。例えば、栗原のブランド品は本当にどんなものを挙げているのか、本気でやってほしいと思う。ただ、声がけだけではなく、予算をきっちり立てて実行していただきたい。

(会長)

他に如何か。

(B委員)

1つ目は、将来像Ⅰの現在の総合計画の基本方針1の①にある「個性ある美しい景観を保全します」という部分の中で、決められているが、今度の新しい総合計画では「景観」という言葉そのものが、抜けている。

栗原には長屋門であるとか、いぐねや蔵、そういったものは近隣にもあるが、どれも昔から大切にされてきたものがあり、近年、少しずつ老朽化や地震の影響などで取り壊されてきている。

そういったものを大切にしつつ残していくことが、この新しい総合計画の基本方針の②にある都市計画のことも大切だが、栗原らしさを失わないでほしいという想いがあり、「景観」という言葉を残せないか、とこれを見て感じた。

やはりどこかできちんと決めておかないと、知らない間にそういった風景がなくなってしまう、どこに行っても同じような、全国どこに行ってもあるような看板等の乱立になる。そうなるからでは遅く、そのあたりを残してほしいと感じた。

2つ目として、将来像Ⅱの基本方針2「次代を担うたくましい子どもを育成します」のところで、これは説明であった「知・徳・体」の順番になっているのだが、「徳・知・体」にしたいということがある。

1つの根拠として、この中の②に「ふるさとに誇りを持ち、命を大切にし、高い志と思いやりの持つ子ども」と、志を持つ子どもを育てるとうたわれている。

①が「夢や志の実現に向けて」となっているが、まず志を持ち、そして志の実現に向けてということではないのかと感じた。「知育」や「体育」、3つとも大事だが、優先順位で並べられ、昔から「知・徳・体」というのは耳慣れているとは思いますが、やはり今は心の時代と言われているように「徳」に力を入れた栗原市であってほしいという想いがある。

3つ目として、将来像Ⅳの基本方針2の③の「空き店舗の活用促進など・・・」というところであるが、これは産業のことに関してのものだが、ここにこのように出てくるのであれば、現在、学校の統廃合が進んでおり、統合後に廃校となった校舎の活用、そのあたりもどこかできちんとうたっていた方がいいのではないかと感じた。

もちろん、空いている校舎がいろいろなものに使われているという話は聞いており、今後、益々進んでいくと思う。まだどのように使われていくか、全く決まっていなところもあるかと思うので、それはやはり住民ではなかなか難しい面もあるため、ある程度、行政主導で行ってその地域を盛り上げる、やはり学校がなくなるというのは、地域の明かりが消えてしまうことにもなるかと思い、気持ちとして火が消えてしまうという気持ちがあると思う。

そのようなところを、ハード面の話ではあるが、ソフト面でそういったことをカバーできるような、そういう施策をどこかで表せられないかと感じた。

(会長)

これらのことについては、後程、一括して事務局から答えていただく。
他に如何か。

(C委員)

将来像Ⅰの基本方針1の②の「都市機能が集積された市の中核機能を形成し・・・」となっているが、どのような構想となるのか、説明の中でよく聞き取れなかったところがあったので、何か具体的な話をいただきたい。

次に将来像Ⅱの基本方針3の③の「安全で安心して学べる教育環境の充実を図ります」というところで、先ほど説明であったように、ハード面とのことだが、12年間で市内の学校の統廃合が他の地区に比べて、かなり急速に進んだという印象を持っている。その辺が落ち着いて、これから教育環境の整備をしていくという想いは感じるが、その辺がどのようになるのかと思った。

それから移住人口を増やすという説明があったが、今、私の地区でも、急速

に空き家が目立ってきている。その反面、行政で作っているわけではないため、何とも言えないが、アパートの数が凄い勢いで市内に増えている。

何か見込みがあって造っているとは思いますが、私の家の近くのアパートは、完成しても全く入っていないという状況もある。

先ほどの全体の説明の中で、10年後に59,000人となる勢いで人口が減少している中、一方で空き家が増えて、一方で急速にアパートを建てている、もう10年経った時に、その辺のギャップも心配になってくるのではないかと思います。

移住人口を増やすための、いわゆる空き家対策も含めたかたちでの、いい提案が出来ないのかと感じた。

(D委員)

将来像Iの基本方針3の①『「自助・共助・公助」に加え、新たに「近助」による・・・』とあるが、この「近助」という言葉を目にした時、凄いと嬉しくなった。

保健推進員として、いろんな所で近所を回っている時に、高齢者の一人暮らしが増えており、自力では、いざ何かあった時に何もできないと思うが、やはりそういう方々も自分で頑張って、何とか近所の皆さんと一緒に助け合いをしていくのが、今後、進めていく方向だと思う。

場所によって近所が遠いというのもあるが、救急車などが来た時に、夜でも日中でも、近所の誰かがその家にどうしたのかと心配して駆けつける。まさに「近助」ということに尽き、ここに入っているのが嬉しく思い、話をした。

(E委員)

質問で3点ほどある。

まず1ページ目の基本方針2の③の「栗原の歴史遺産や地域の伝統文化を守り、次代に継承します」というところで、具体的にこの文化、この歴史遺産をメインに、これを軸に次に継承していきたいというものがあれば、教えていただきたい。

次は、2ページ目の基本方針2の②の「ふるさとに誇りを持ち、命を大切に、高い志と思いやりを持つ子どもを育てる教育を推進します」というところで、こういったことを教育で行っていけば子どもたちが誇りを持ってくれるだろうという具体的案があれば教えていただきたい。

もう1つが、4ページ目の基本方針3の③のインバウンドの誘客促進だが、ここも海外から日本を訪れる観光客を誘致するために、目玉として考えているものがあれば、そこを教えていただきたい。

(会長)

これも最初の話と質が同じだが、要するに、具体的にイメージアップできなければ、なかなか進まないのではないかという意見が背景にあると思う。

それでは、ここで一旦休憩とし、何点か出た質問等の回答を、休憩終了後に事務局から願います。

~~~~~休憩~~~~~

(会長)

それでは、事務局から回答をいただく。

(事務局)

事務局で、現状において回答できる範囲となるがお答えする。順不同となるが、ご了承願いたい。

副会長からいただいたいくつかの提言等に関して、医師の確保や、或いは高齢者対策、地元企業の雇用の確保、これらへの支援、或いは栗原ブランドは、実は栗原市の弱い部分になっている。

これらを進めていきたいという要望について、しっかりと具体的な取り組み等を、今後、内部で検討していきたい。

次に、B委員からあった栗原らしい美しい景観を残すという考え方を示したほうが良いという意見と、もう1つ、教育に関して「知・徳・体」という3本の柱であるが、やはり今の時代、まず「徳」が大変重要ではないかということで、「徳」を最初に移動するという方策はとれないかという意見、このことについては、こちらの基本構想の構造にも関わるところであるので、また内部に持ち帰り、次回の審議会の際に結果について報告する。

また、同じくB委員から、空き校舎活用に関する意見についてであるが、空き校舎は、只今、地域においていろいろな話し合いがなされている。各地域において活用する手法、或いは地域で活用せず、企業等に貸し出す手法、いろいろある。

それぞれ具体的に活用方針が決まった段階で、もしくはその方向性が見えた段階で、この総合計画のそれぞれの将来像の中に明確に今後、入れられていくこととなると考えている。

次に、C委員からいくつか質問をいただいた。

1つは、中核機能地域。これから新しく形成していくとなっているが、この中核機能地域についてももう少し具体的にという意見である。先程、事務局の説明においては、東西の話をした。東はくりこま高原駅周辺、そして西は築館宮野

地区・栗原中央病院周辺、ここを結んだエリアを中核機能地域としたい考え方である。

もう少し付け加えると、なぜこのエリアかという理由の一つは、現在、みやぎ県北幹線道路の延長と、南北のラインとして築館バイパスの延長が決定している。この道路がどんどん西に進んでいき、東北自動車道を越え、そして延長が決定している築館バイパスに接続するといったラインが示されており、その高速交通網の1つのポイントとして、今、私が申し上げた地域が中に入っている。

今後、栗原市のいわゆる交通の便を考えた時に、そのエリアが中心になってくるということがあり、今後10年間の中で、このエリアが様々な意味で、いろいろな開発のエリアになるのではないかと考えたことを、今回示したところであり、具体的にこうするといったところは決まっていないので、今の県北幹線道路の伸びなどを考えると、今後このエリアが重要になってくるという認識でいるということである。

また、学校の統廃合について今後は、という質問に関してであるが、現在のところ、栗原市の学校の統廃合は、大体のところは一段落ついている。その上で、新しい総合計画においては「安全で安心して学べる教育環境の充実を図る」ということで、学校の改修等を進めて、子どもたちが学べる環境づくりを、現状の学校で行っていくという前提で考えている。

そして空き家対策について、この空き家対策の現状は、空き家バンク登録制度で空き家の利用を希望する方々に紹介する仲介者の役を市で行っており、まだ実際増え続ける空き家に対して、登録数が増えていない現状である。

これは、もちろん持ち主の意向ということもあるが、今後もこの点については、新しい総合計画においても積極的に進めていくという考えである。

次に、E委員から3つ質問があった。

まず1つ目、文化財、或いは歴史文化をどのように継承するのか、また継承するものは具体的にはどのようなものかといったことであるが、まずこれにはハード面とソフト面がある。

ハード面については、市内に、例えば伊治城跡・山王圀遺跡、今回注目されている入ノ沢遺跡など、様々な遺跡がある。その遺跡の保存等についても、こちらの中に含まれる分野になり、あとは、例えば神楽やいろいろな祭り等、いわゆるソフトの部分で歴史を持った独自の文化と考えることができる。

それらを今、継承して活動している団体等を支援する方策も、この新しい総合計画で重要になってくると考えている。

また、将来像Ⅱ、教育分野における「ふるさと教育」について、もう少し具体的にという話であったが、いくつかあると思うが、例えば学校において取り

組んでいる、或いは取り組もうとしているものとして、1つは、栗原の歴史である。栗原の歴史を、しっかりと副読本を利用し、子どもたちに教えていくといったことが、まず一点ある。

さらに、栗駒山麓ジオパークと関連して、この栗原が持つ地形や科学的なことを勉強していこうということも進められつつある。このジオ教育という側面も、ある意味「ふるさと教育」になるのではないかと考えている。

3つ目のインバウンドに関して、インバウンドの目玉になるものは、という意見であったが、このインバウンドについては、昨今たくさん言われているが、外国人の観光客がなかなか東北に来てくれないという現状である。

しかしながら、栗原市ではこれまで、台湾や子どもたちのホッケーの交流を通してオーストラリアや、或いは企業との関連でスウェーデンとの独自の交流を開拓してきた。

特に台湾に関しては、仙台空港に離発着の便数がどんどん増えている状況であり、東北地方にたくさんの方が来ている。その方々について、栗原市に来ていただくための施策として、南投市という場所と国際交流、いわゆる姉妹都市に近いたちの友好協定を具体的に結んでおり、南投市と今後は市民レベルでの交流も積極的に進めて参りたいと考えている。

最後に、D委員からあった「近助」の発想、これが重要であるという意見があり、まさに今回、この近くで助ける「近助」の考え方は、新しい総合計画のソフト面でのひとつの目玉であると考えている。

ただ残念ながら、わざわざ「近助」という言葉を使わなければいけない状況が市内にあることも事実である。同じ市内であっても、隣同士が助け合っているエリアもあれば、隣に誰が住んでいるか分からないという状況のエリアもある。

それを踏まえた上で、頻発する災害等からお互いに助け合うためには、まずは近くで声掛けをしつつ助け合いを進めていこうということをうたっていることをご理解いただき、とても感謝しているところである。

(会長)

今の事務局からの回答に関して、質問を伺う。よろしいか。

さらに基本構想・基本方針について、意見を伺う。

無いようなので、次に進める。

(事務説明局) 省略 [土地利用構想(案)について]

(会長)

土地利用構想で縛りをかけていくことになる。現在とそれほど違った視点ではない。自然景観や経済的な利用、文化的な利用など、殆どが土地利用に関係してくる。意見を伺う。

栗原市の中核地区、「へそ」ができそうな雰囲気がある。

(F委員)

私達の土地は山間部であり、田んぼや山に耕作放棄地が年々増えている。担い手不足から起きていると思う。その辺の考え方を伺いたい。

山において、機械作業が多くなっているせいか、仕事が大まかと言うのか、雑と言うのか、使えるような木が転がっている状態であり、防災の面でもそういう状況はあまり良くないのではないのかという想いがある。

(会長)

木が転がっている状態は危ない。林業の面から、A委員に意見を伺いたい。

(A委員)

森林組合は山の仕事をしているが、その木をどうするのかは、個人のものについては個人扱いになり、個人の財産であるから、頼まれたこと以外は出来ない。ただし、市から木が倒れたから撤去してくれと頼まれれば、実費をいただいて、撤去はしている。

その中で、的を外れるかもしれないが、杉や松は商品価値があるとされているけれど、それ以外の広葉樹にも価値があることを見つけた。売り先が段々と広がっている。

いぐね等で倒れると邪魔だからということで、チップに出さないで、しっかりとした売り方であれば、切り倒す代金程度にはなるので、森林組合に直接関係がない方でも、そういうことはお手伝いできる。

ただし、あくまでも個人の管理の問題については、我々はどうしろということとはできない。狩野英孝さんの神社の木が倒れ、その木をどうするかとした時に、普通はチップに出すが、勿体無いので狩野英孝さんのサインを付けて、板を作ってみてはどうかという話をした。

使い方によってはお金になるということは今までは考えないでやってきたが、そういうことがあるので、木によっては非常に有効になる。雑木という木はないということが最近分かった。

(会長)

それでは、事務局から回答をいただく。

(事務局)

耕作放棄地については、様々な議論をしている。具体的には、土地利用という分野、先ほど議論いただいた将来像Ⅳに示してある、いわゆる耕作放棄地の問題を、2つの側面で市役所内では考えている。

1つは後継者対策である。農業後継者がいないという現状が耕作放棄地を生んでいるというところである。

もう1つは、国が、いわゆる耕作放棄地を含め農地の集約化・大規模化をどんどん進めているという社会的な制度の問題もある。

この2つの観点から、できるだけ市内において、耕作放棄地を増やさない手法を、この計画の中ではまだ目標だけの設定であるが、具体的な取り組みを今後示していきたいと考えている。

(会長)

なかなか難しい問題で、このようにすればよいということはない気がする。他に意見を伺う。

(副会長)

日本ジオパークの認定の中で、伊豆沼と内沼が入っていると思うが、ここに朝早く行って水鳥の写真を撮るといのがあり、トイレと休憩所がなく、非常に困っているという話をいろいろな方から聞く。ぜひこれは作ってほしいと思う。

(会長)

それらも総合計画の中に入れていただければと思う。

他に意見を伺う。無いようなので、次第のその他に進む。

#### 4 その他

(1) 次回の総合計画審議会について

平成28年11月30日(水)開催

(2) マイナンバー等の関係書類の提出依頼

(会長)

他に何かあれば質問を伺う。

(G委員)

先程、基本方針の回答にあった空き家店舗の活用促進というところで、市の登録制度という説明があったが、登録制度というものは具体的に今現在、何件程度の登録となっているのか。

(事務局)

ただ今、G委員から質問があった空き店舗、商店街の空き店舗についてであるが、企画課で把握していないため、後程、産業戦略課に確認し報告したい。

(会長)

総合計画基本構想(案)について、議論していただいたが、大勢は立派な基本構想であると思う。ただし、具体的なプロジェクトがなかなか見えないので、いろいろなご意見があったが、多くの人たちに理解できる、リアリティのあるようにということに向けて、またそうしていかなければ支援も厳しく、市全体の市民がついてこないだろうと思う。

或いは、いろいろな具体的なことに関する考え方であるが、市ですべて行うのも結構だが、市内にいる多くの方々の知恵を借り、或いはその内部で成功体験を持つ方々に支援いただくということも必要となってくると思う。

私は、この栗原の魅力を引き出す大きな鍵となってくるのが、インバウンドの推進ではないだろうかと個人的に思っている。台湾との交流やジオパークを契機に、栗原を引き出すような新しい商品と言うのか、事業と言うのか、そういったものを開発したほうが良い、或いは出来るのではないかと個人的に思っており、さらに加えれば、歴史・文化・自然・食べ物をベースにして、いろいろなやり方があるのではないかと思う。

この具体的なやり方に関しては、私は今、微細なところに話を持っていくところですが、何を言いたいのかというと、この基本構想を成功させるかどうかは、実は細部にかかっており、その細部を作り上げることが大事なのではないかと思ひ、そこで従来とは違った手法が今後、必要になってくるのではないかと考えている。

今日、議論いただいた総合計画基本構想は、これはこれとして非常に立派だということで座長を降りるが、今後さらに具体的な枝葉を付けていく際に、そこに皆さんの力や、或いは内々の知恵を使っていたきたいと思う。

(副会長)

この総合計画は5年、10年と続いていくことだとは思いますが、まずは栗原として、将来、こういった事業があるというようなものがあったとしても良いのではないかと思います。本当に希望を持てる夢というのが見えてこないと思う。

やはり将来そういった、私の代でも、そういった夢があるという大きな事業を掲げてもいいのではないかと思います。

(会長)

今のビジョンがあり、構想があり、計画があり、実施計画があって、その具体的な話があったが、副会長から皆に見えるビジョンを、このようにするというビジョンを見せる必要があるという話であった。私もその通りだと思う。

以上で閉会とする。

6 閉会 午後3時20分